

ふくしま学力調査等を活用したR-PDCAサイクルによる授業改善

福島県教育庁義務教育課

- すべての子どもたちに必要な資質・能力を育成するため、一人一人の子どもを「ふくしま学力調査」と「普段の見取り」で捉え、R-PDCAサイクルによって教員の授業改善、子どもの学力向上を図る。
- 授業改善を進めるにあたっては、県が発行した「令和6年度授業改善グランドデザイン」の「授業改善チェックリスト」から優先度の高いものを選択し、焦点化を図って具体的な改善を進める。



令和6年度授業改善グランドデザイン→

R

【「ふくしま学力調査」の分析によるResearch】

- **必ず確認する帳票**：「帳票09」「帳票28」「帳票40」
 - ・ 特に「帳票40」は、グラフ化ツールを使用して必ず「見える化」
- **一人一人の「学力の伸び」を確認**
 - ・ 「経年で順調に学力を伸ばしているか」「普段の見取りとギャップはないか」
- **集団（学級や学年）としての「学力の伸び」を確認**
 - ・ 今後、特に意識して指導すべきターゲットは、どの学力層の子どもたちか

【Action】

- 「**授業改善チェックリスト**」に基づく手立ての改善
 - ・ 継続実践が必要なもの、重点を置く項目の変更が必要なものの再確認
 - **学力層に応じた手立ての改善**
 - ・ 現状に応じた集団への支援等の再検討
 - 「**伸び悩んでいる子ども**」に対する支援
 - ・ 現状に応じた声かけ、課題の提示等の再検討
- ※ 現状を捉え、伸び悩んでいる子ども、ターゲットとなる学力層の子どもを見直す。

【Plan】

- **【Research】した状況に応じ、「今までの授業」から改善を図る部分を焦点化**
 - 「**伸び悩んでいる子ども**」や「**ターゲットとする学力層**」の想定
 - ・ 深い教材研究
 - ・ 構造的な板書
 - ・ 発問の吟味・精選
 - **【授業改善チェックリスト】から重点的に実践するものを選択**
- ※ 積極的に、学年間・教科間で【Plan】の共有を図る。

【Check】

- 「**授業改善チェックリスト**」による**自己評価**
 - ・ 授業中：「子どもの反応」から、次の【Do】へ
 - ・ 授業後：「子どもの学び（振り返りの記述や発言等）」から、次時の【Do】へ
- **授業の録音・録画、互見授業等による客観的な視点からの相互評価**
 - ・ 発問や指示、説明等の文言の精選
 - ・ 教師の「みる」「きく」「つなぐ」のさらなる研鑽

【Do】

- 教師の「**発話**」を精選し「**みる」「きく」「つなぐ**」を強化
『教師が教える授業から子どもが学ぶ授業へ』
 - ・ 一人一人の反応やつまづきを「みる」
 - ・ 一人一人の考えや思いを「きく」
 - ・ 考えの差異や習熟の段階を踏まえ、子どもの発言を意図的に「つなぐ」
- **日常的互見授業の実施**
 - ・ 互いの「みる」「きく」「つなぐ」を確認
 - ・ ターゲットとした学力層の子どもへの支援の検証

